

畫本西遊全傳

編

二

2500
40-22



2500
40-29

油漬

繪本西遊記三編卷之貳

岳亭丘山譯

神狂誅卓冠

道味放心猿

斯て三藏師徒と琵琶洞と出てより只管西に向ひて行ふ君子の日教と
 経て亦清明の時節小逢一日平地めて更小山なき處小到り個々腹
 餓て路不行果疾く人家有處小到り齋を吃とて八戒釘鉞と拳
 て馬を追ども更小行む行者鉄棍と取出して一色味ぶと見りうが馬
 ら俄小駈出して其疾き支箭の飛がごとく三藏馬を止むととも更小
 止むば没奈何鞍小口咬つきて行ぬふ此馬一息小二十余里を馳行
 て漸々小止りたる二人の徒弟未ご追及ぶる死小乍ち一色の鈍を響は
 よと見たりる道の一邊より三十人計の剪徑ども個々鎗刀と把て躍り出
 三藏を捉圍と其中より兩人の大漢進と出三藏小對ひて云汝の梁門



ある故一命を免れざる盤纏をば返與て通じ三藏馬より飛ぶ
下蹲跪て云々やう貧道へ東土大唐より西天小到り経を求るの
僧ろろろ長安を出しより星と重ぬ月を積で漸々此死ふ来る今の
盤纏とてい些もろろ願く大王貧道を赦して西方へ行かぬ人
逕ども嘲笑ひ你仇言を吐き又ろろ也般纏ろろの偏衫と脱馬をも俱ふ
遍與てゆけ然ろろの汝を殺さば三藏今の更急ふ及んで畢竟ろろ
説話で云々盤纏有とろども皆徒勞ふ持せ置ろろ跡より渠
が来るを待て盤纏を集めて大王小奉らん偷夫ども是を聞て死
夫を待べとて繩を以て三藏を細め路の一邊ふある樹の上小釣置
て爰彼首小引隠して待居ろろ此時行者師父を追て来り此体を
見ろろ大小説き駈よろ何故小斯細縛らばと云と向ふ三藏更の行

細と語りて人を行者聞て造化造化よき賈を出来ろろと忽ち
身を愛ぐて小和尚とろろ肩小包袱をけ色を突て敷き師父何と
斯細縛ふ逢ありやと呼びろろ斯細縛と聞つて走ろろ出行者を
把圍て你疾く盤纏を出して吾們小付なば然ろろ此死を通じ
ろろ行者曰く何れも吟唱の更ろろは包袱の中ふ若干の盤
纏の残りも進まざる疾く師父を助けろろ偷夫ども大小権者
三藏が細縛を解らば三藏開ろろ馬小飛乗原来道へ逃歸
行者説得て道が違ひ候と叫ろろ逃んとて勇躍ども扯止め
る更ろろ疾く盤纏を出せ行者笑て曰く你等盤纏を求るろろ
是を二ツに分て汝小二人と吾と三人ふて是を把んや勇躍も敢
て悪き小虎子が言語ろろ若許若の金あろろ此の汝も與べろろ行



孫悟空



孫行者
打救
兇賊
者途

孫悟空

者曰く倘又盤纏の數不足つゝを佯亦かひり剪淫して盜貯する金子
 有べし夫と出して吾小與よ盜賊ども大い小賢と此小秃子不悟死生
 却て吾們が物を合手んとするや唯打殺せと誓ふつゝ忽ち棒を以て行
 者頭を七回八回打々ども行者まゝぬ風情ふり立居り剪淫
 ども大い驚き此小秃子頭の堅き更こそ心得ねと二三人立のり
 一同小打々ども行者此も不常して個々少く散る人吾又個々小
 贈る物ありとそ耳の裡より綉花針を把出し我門沙門の更らるを
 を盤纏とて持まらざるぞ唯此針を進まべし剪淫ども賢て曰く裁縫
 の更を知ぞ此針何の要ふせん行者閉も敢て手小取て一度打振
 々れ強大なる鉄の棍とる偷夫ども呆呆拵拵顔見合せ居り
 たり行者曰く汝們因果あり某小出逢り我一棍を吃まべしと進

と寄く一人の大漢を唯一撲ふ打殺は偷夫ども大い小賢と進まどと
 て聞きらるる行者物の數もせむと一棍今一人を打殺せむ多くの
 盜人連忙駭きて四方小散てど逃失々々此時八戒悟浄三蔵ふ出合更
 の仔細を聞て行者が未まらざるをあやぶと此処へ尋ねまら此体を見
 よらとも急ぎ三蔵の許へ逃歸と行者が人を打殺しつゝ更を告るに三
 蔵閉く大い嚇き行者が強悪つゝを誓ふ口の中小獨言るが馬と進
 めてまらりひ此死人を見せば淋漓りて血の流し倒れ臥る在る
 心小忍び羨むひ八戒小分付て路の一邊小埋めさせ賢を合せて行のみ
 小向の方小一搦の房衙あり三蔵鞭を持て差て曰く吾們今宵は彼死
 め至つて宿を借て安歇べしとて頓て門前小到り馬より下る人二人の老人
 越つて出く三蔵を見て那里よりまらり人ぞと問三蔵の曰く貧道は

東土大唐より西天小到つて経を求めんとする僧の僧らるる今鳥既小天暮
ふ及ぶ願く一宿と回心應めん老人行者が輩三人と見て大いふ驚き
借の妖精まじりて連忙く逃入んとする三藏是を止とめて曰く
施主を驚さすまふ受らるるを彼三人の吾徒弟めて形の醜陋と雖も亦更
小妖精ふあはるる管心心を安んぬ一宿と免させめん此言を聞くと老人
衛々小落着然るに此方へ入るるとく四人を裡小請い入互小禮早て
奇と宿め百般と接待する三藏老人小對ひて姓名を問ふ老人答
て某が姓の揚氏なり三藏は令郎ありやと問ふ老人曰く
一人の思息あり二人の孫ふて今尚幼く候る三藏令郎小見えそ
よと曰へる老人が曰く渠小逢るふとも礼を知らさるるに小姓命苦
くして善らぬ子を持渠平日小家小あはるる三藏の曰く那方小行て

活計を為るるや老人太息を繼て曰く過業の為外小在正道の子
つりせを那て歎き候はんや専ら家を打人を殺し火を放ち財を偷
むを常の業と云ふ交る友妻ととどども悉く人倫の道を知は個々
孤狗黨の数なり五日向小家を出て今小飯と候はばと云三藏心裡小思
ふやう急的悟空小殺さるるの渠が息男あり有さるると密小悲そ
まひたり斯て揚老の家の後邊なる園の内小草堂の有る處へ四
人の者を伴行て此裡小安歇せたり斯る死小揚老が一男大勢の克
性どもを引領四更の頃小到つて家小飯と吾們成さ飢つるをそとて
乱噓炒鬧て妻を起し飯を焚せ自ら茶を取まんとして後園小到り
三藏の白馬を見付出し妻小向ひ問るる今後園小有白馬の那里
より来りぞ妻が曰く是れ東土大唐より西天小到つて経を取和尙

の白馬より黄昏のころ爰に來り宿を求めりふと公婆草堂の裡に
 伴ひて安敷おきのいぬと語るを聞て頓て大勢の群黨に向ひ堂を拍
 て大笑ひ讒言今我家小左群黨是をめて讒言との何者ぞや揚老が
 男の曰く今日我頭見を打殺せし和尚我家宿を借艸堂の裡に
 在て熟睡する我濟個々飯を吃し早らそ一同の手を下して頭見の仇
 と報とべし群黨の者大いふ惟喜各自準備をとりたり揚老の物
 呼喝きふ眼を覚し密に此動靜を聞て驚き頓て後園に到りし四人の
 者を動起し密に此度を告て背門の扇を排き長老早く道をゆく
 云三藏は是を聞て大いふ驚き三人の徒身と俱に揚老を拜謝して後
 門より道の出道を急ぎて落りし然るに撒除ののどもに飯を吃し早
 りて後一同に技列て艸堂の裡に伏て入見を人影更ぬり其首より爰

よと尋ら間後門の開きしるを見つけ儲の爰より逃出らん夫道と
 ると言より早く関を揚て追蒐する三藏の遙に落延のひくが作ち
 後より三十三人の者どもも鎗刀を把て追來るを見て急應のせんと怕
 せぬくを行者曰く師父放心しぬる老孫行て追飯し候らん三藏聞
 て徐管び人の命を破べし只渠們を愕眙て追返さそし行者急ぎ
 鑊棍を把て回頭し偷夫どもを悉く打倒し此間小三藏を八戒悟
 淨と諸俱に遙に逃延のひくは行者の大勢を打伏て庇負の偷夫は
 向ひ揚老が男の何れとぞ問は黄なる衣服を着るる則ち揚老が男
 ろりと吞み行者渠が刀を奪ひ取忽ち首を伐落し手小提て三藏
 小追及是こそ揚老が男の不孝の首を俵へとして見せたるを三
 藏大いふ驚き行者向ひ大いふ叱て曰く此降猿昨日も兩人



西遊記三編



假悟空
三藏
打倒

西遊記三編

を打殺しぬ我汝が不仁なるを心中小恨る如小今宵揚老が房小到
つ渠が斎と受舎を借後門を排きて我一命を救ひしり假令渠が
一男奈何計りの不肖ありとも我小管る更小有む那ぞ漫の小思
を亡心を渠が首を斬るるや汝が如き者弟子とける更恨ふべし
趁早小飯るべし唯今小罪を悔ふべしとて緊箍咒を唱ふへを行者
頭疼きて堪がらぬ地頭小倒轉びし師父念ぶる更まらぬと説きしり
嗚びるもども三藏更小閑客と許すの人を殺し天地の和氣を
破る那ぞ今免さんやと口も止は唱ふへを行者の面色赫く眼腫て恨
苦堪がらぬ念する更まらぬ我今飯を去べしとて下ち勸半雲小打
衆て去方知む成ふる期て三藏の八戒小命とて揚老が男の屍と尋
出し首を纏せ路の一邊小埋させしり

真行者落伽山新苦

假猴王水簾洞騰丈

却説孫行者の三藏小追飯さる空申小立て沈吟する小我今花果山
小飯るを眷属們小笑ふべし亦師父の方小行を緊箍咒を唱へるを
統々々々念魔のせんと立煩ひ多時考へし先南海菩薩の方小赴き此
更と許さしと夫より急ぎ南海小到て紫竹林中小赴き宝蓮座の邊
ア小寄て菩薩を拜し身と倒し色と發つて大の小歎く菩薩善財童子
小命とて是を援け起させし悟空何の勞き更有りて斯のごとく歎く
や備小仔細と語し我小恨苦を救ひ孽を消滅まべし行者三藏
小追ひて更と語し老孫唐僧を助け西天小赴くの路上身を捨て妖
魔を除き正果小帰せん更とある處彼長老思小背き義と亡心を小孫
を逐出し更小黒白分ちがし菩薩曰ひしり你神通廣大なる身とて

何ぞ恨苦て偷夫を殺せざや彼唐僧一道小善心を取決して人命を
輕せば我今公道論むふ都て汝々不善なり行者が曰く假令老孫
此計りの不善竟ありとも功を以て罪を折き免るべき事なるを斯のご
く追放せん方望の菩薩慈愍を垂るひ緊箍咒を唱へ緊箍を放せ
やひ老孫を水簾洞小帰し性命を養へぬ人菩薩笑て昔日如來我
小緊箍咒と授るふ未曾て緊箍咒を知り等汝が爲ふ唐僧の行末
如何なるや是を伺ひ見べとて蓮臺の上端座すのひ三界ふ心を運
惠眼をのぞく遙小宇宙の回をに見ゆひ少時して宣ふや師父早晚身
を破るの難爲あり遠くば汝を尋ぬべし汝及時此死ふ在て待た
我唐僧自説て汝と飯一諸俱小徑を把せ正果小到しめん行者是に
聞て没奈何菩薩の脚傍小止りて居るる却説三藏の行者と違

返八戒悟浄と俱ふ五十里計り西小進むゆひが三藏の曰く吾今腹
中甚飢なり你们何死へるとも行て齋を求めまらんや八戒が曰く此邊
に齋と求める死候のむ三藏問て倘齋を求る死なくば水もて取まらば
八戒が曰く師父且馬より下て待た人某尋ね来るべとて雲小乗り出
行たり斯く多時待ども飯もぎらるるが三藏の飢渴小迫り悟浄を呼ぶ
曰く八戒食を求んとて出行未だ歸らまらば我飢渴小忍びがごとく悟
浄問て貧道尋ひまらばと云ふ打乗て出行たり三藏の唯獨と云
ふ倉皇して待居るの如小行者水を手持て出まら師父此水涼しく
亦濁らるる先是を吃ゆひて飢を止めぬ人我再度行り齋を求めまら
三藏大のふ叱て曰く假令渴て死とも汝が水を啜るべきや熱早小持
歸るべし行者曰く師父倘我をゆる鎖のむが決して西天小到しぬ

協たすひ難がたくん三藏さんざうの曰いわく西天さいてん小行せうかうをさりの你なんぢがあるまふあくど疾とく疾とく飯いつさとし行ぎやう者しや面めん色しき愛あいりて三藏さんざうをの罵ののりて曰いわく汝なんぢ狼ろう心しんの深深しん子し十分じふぶん小我せうがと差辱さうじくする思ひ知れと云いふ敢に鍔棍こんと押把おしのべと三藏ざうの背上せうじやうを強大ぢやう小打せうぢといは三藏ざうの眼昏がんこんと地上ぢじやう小倒せうたうと死生しじやう半はん半はんの動静どうじやうを行者ぎやう惟ただ喜よろこ二箇にげんの包袱ふくを奪ひ取筋しん斗と雲うん小打せうぢ來きて去方きやう知しば失小せうけつ了りやう斯かくて八戒はつがいの山の回りる死し小せう人じん家かあると見つけ出いし儲の上首くび此こゝ山さん小渡せうたらして人家じんか見みえざりと覺おぼえると依侍いせうりる般ぱん彼か死し小到せうたう了りやうと齋と未らんと行脚ぎやうの僧小身しんを変とて一いつ軒けんの家小到せうたうと齋と未らんと光復くわふく出いまりと鉢の齋と齋と未らんと八戒はつがい惟ただ喜よろこやがて本相ほんさうを頭と原の道と立飯い途だ中ちゆう小悟ご淨じやう小行せうかう逢ほう又また水みづを没持もて二人にん同どう小立た歸かへと師父しふと見えるを二藏にざうの塵埃ちんあいの中ちゆう小倒せうたうと白馬はくば長ぢやうと嘶き追り小行せうかう囊ふく見みえるとらる

八戒はつがい鷲じゆき目是こゝの必定ぢやうぢやう揚やう老らうが男子なんしの余黨たう愛あい未まとて師し父ふと打殺うちころし行囊ふくを奪ひ去り悟淨ごじやう色しきを毀て師父ふ々々疾しき氣きを鉢と呼び歎く八戒はつがいも万般ばんとみ抱いだりたりといは三さん藏ざう衛ゑと魁と苦氣きと聲といひる今いまの程行ぎやう者しや歸かへり來りて我われ小淫せういん小吾ご堅けん執しやく小追お出いりたる小渠け賢けんて我を一棍こん小打ぢ倒たうし行囊ふくを把て逃去にげり八戒はつがい聞きて大小罵ののりて曰いわく此こゝ深しん猜さい恚い怒どぞ斯のとく无礼ぶらいとや我われ今いま渠けを尋出たり包袱ふくを合手あ返かへさ悟淨ごじやうが曰く你怒いかるとを止めり且かつ人じん家かを求めて師し父ふと安歇あんせ言ふ小奇きとと彼か老らう婆はが家小頼たのむとと夫より師し父ふを馬小乘じやう進しんせるの人家じんか小到せうたうと親小頼たのむとと老婆は信しんやる小弱じやくを著て三藏ざう小佑たむと而も飯いを吃りる時とき三藏さんざう悟ご淨じやうを呼び汝趨たすり行者ぎやうを尋出たり行囊ふく

眞
儼
二悟
空
空中
戦



會天百字三編

會天百字三編

と把返す来む方知返す與へば南海菩薩なんかいぼつさつふ是と許へ菩薩ぼつさつと請まがらふ
奉つて是を求め帰るべしまがら管くだん子し渠がと争あざむふと悟ご浄じやう命めいを受うけく
雲うんふうちち衆しゆ二に日に三さん夜やふして東洋とうやう大海たいかいを過す彼か花果かうくわ山さん水すい窟くつ洞どう小せう到たうる
此時このとき行者ぎやうのの高たかきき石いしの上の上小せう摩ま衆しゆ部ぶのの猴さるどもども前後ぜんご左さ右う小せう群ぐん居いる
て行者ぎやう手て小せう一いつ通つうのの文ぶんを持も高たからら小せう説せつ上じやうるを悟ご浄じやう何なに也やらんと問とふ
居いるは唐たうのの大だい宗しゆ自じ帝ていよりの二に藏ざう小せう給じゆりり一いつ閻えん文ぶんとと説せつりり悟ご浄じやう
堪かへらみら近ちかくく進しんまし師し兄けい汝に師し父ふのの閻えん文ぶんをを説せつでで何なにももももやや行者ぎやう
頭かぶをを奉ほうくく是このを見みるは何なに者ものののままはは愛あい小せうままららややとと喚わびびるる衆しゆ
部ぶのの猴さるどもども駈か集じふりりてて竟けい小せう悟ご浄じやうとと捉とてて行者ぎやうがが前まへ小せう扯し居いりり行者ぎやう
大だいりり小せう唱なうてて何なに者ものののままはは漫まんらら小せう此この處ところへへ来きりりどど悟ご浄じやう心しん中ちゆう小せう渠が故こ
意いとと見みんん知ちぬぬ風ふうととままららんんと思おもひひ孝かう恭きやうとと礼らいとと我わが師し父ふ悞あやまりり
と師兄しけいのの性せい暴ぼう々々ききをを恨うらみみ終つひ小せう追お放はなちちるる師兄しけい是このをを怒いらりりてて師し父ふ
打うち倒たうしてして擔たん見けんをを把とりり今いまよりより疾しやく飯はんりりてて再また度たび師父しふをを扶たすけけしし俱とも小せう西さい
天てん小せう赴しゆきき徑じやうをを把とりり一いつ尚なほ又また俱とも小せう行ぎやう衰さい協ぎやうふふららのの万まん望ぼう行ぎやう衰さい
我わが小せう給じゆりり一いつ師兄しけい今いま名な山さん小せう左さとと快くわいくく楽らくをを極きよくめめるる心しん的てき又また外がい小せう求もとむむ
更またああららんんやや行者ぎやう嘲あざわ笑わらてて日ひくく汝に行ぎやう衰さいをを求もとむむ更またとと問とふは閻えん文ぶんをを説せつすす
らんん我わが唐たう僧そうをを扶たすぎぎとと爲なるる何なに西さい天てん小せう到たうるは徑じやうをを求もとむむ更またとと得えるは我わが今いま更また排はい
ててああるる手て當あたりり置おききてて一いつ日にちのの明あ日にちのの友ともをを打うち立たてて立た地ち小せう西さい天てん小せう到たうるは徑じやうをを取とりり
るるやや汝に尙なほ疑ぎひひ思おもひひ我わが准じゆん備びをを見みるは小せう的てき的てき們ら小せう分ぶん付つてて疾しやく
師父しふをを請まがららままららとと云いふは小せう猴さるどもども赴しゆりりてて一いつ隻しやくのの白はく馬ばとと出い出でせせ
をを一いつ人にんのの二に藏ざう一いつ人にんのの悟ご浄じやう又また一いつ人にんのの八はち戒かい行ぎやう衰さいをを擔たんひひてて出い出でるは悟ご浄じやう是このをを見みるは
てて驚おどろろきき大だいにに小せう怒どりり宝ほう杖じやうをを廻まわりりてて飛と菟うとと彼か假かり悟ご浄じやうをを唯ただ一いつ討たう小せう打うち殺ころせせ

と師兄しけいのの性せい暴ぼう々々ききをを恨うらみみ終つひ小せう追お放はなちちるる師兄しけい是このをを怒いらりりてて師し父ふ
打うち倒たうしてして擔たん見けんをを把とりり今いまよりより疾しやく飯はんりりてて再また度たび師父しふをを扶たすけけしし俱とも小せう西さい
天てん小せう赴しゆきき徑じやうをを把とりり一いつ尚なほ又また俱とも小せう行ぎやう衰さい協ぎやうふふららのの万まん望ぼう行ぎやう衰さい
我わが小せう給じゆりり一いつ師兄しけい今いま名な山さん小せう左さとと快くわいくく楽らくをを極きよくめめるる心しん的てき又また外がい小せう求もとむむ
更またああららんんやや行者ぎやう嘲あざわ笑わらてて日ひくく汝に行ぎやう衰さいをを求もとむむ更またとと問とふは閻えん文ぶんをを説せつすす
らんん我わが唐たう僧そうをを扶たすぎぎとと爲なるる何なに西さい天てん小せう到たうるは徑じやうをを求もとむむ更またとと得えるは我わが今いま更また排はい
ててああるる手て當あたりり置おききてて一いつ日にちのの明あ日にちのの友ともをを打うち立たてて立た地ち小せう西さい天てん小せう到たうるは徑じやうをを取とりり
るるやや汝に尙なほ疑ぎひひ思おもひひ我わが准じゆん備びをを見みるは小せう的てき的てき們ら小せう分ぶん付つてて疾しやく
師父しふをを請まがららままららとと云いふは小せう猴さるどもども赴しゆりりてて一いつ隻しやくのの白はく馬ばとと出い出でせせ
をを一いつ人にんのの二に藏ざう一いつ人にんのの悟ご浄じやう又また一いつ人にんのの八はち戒かい行ぎやう衰さいをを擔たんひひてて出い出でるは悟ご浄じやう是このをを見みるは
てて驚おどろろきき大だいにに小せう怒どりり宝ほう杖じやうをを廻まわりりてて飛と菟うとと彼か假かり悟ご浄じやうをを唯ただ一いつ討たう小せう打うち殺ころせせ

一復の狼の奴精のり行者是を見くたふ筋つと鏡棍と廻して打てふ
 うる衆部の小狼ども悟浄を捉んと駈まゐる悟浄の急ぎ越つて退雲小打
 乗逃さうらうら彼行者更ふ是を追ひ又別小変化小馴らる小狼小命
 けて悟浄が形小変せしめ高西方ふ赴くべき準備とこそいふ為ふれと其
 く悟浄の東洋大海と放し南海落伽山小到し木又小逢て礼を施
 し菩薩小見えんき由と告る木又則ち悟浄を伴引く菩薩小得見
 しむ菩薩曰ひくらくの你唯今何幹有て此死小未さるや悟浄身平臥
 て拜し畢つて頭を拳て彼支を告んとさる死小菩薩の身邊小行者
 が居つて左を見て悟浄たりの小憤つて杖を把り打んとは行者更
 小手を動さざり身と外して菩薩の脚後邊小隠むらる菩薩是を見
 めひて悟浄漫り小手を揺るとさうと你何の故を以て行者と打ん

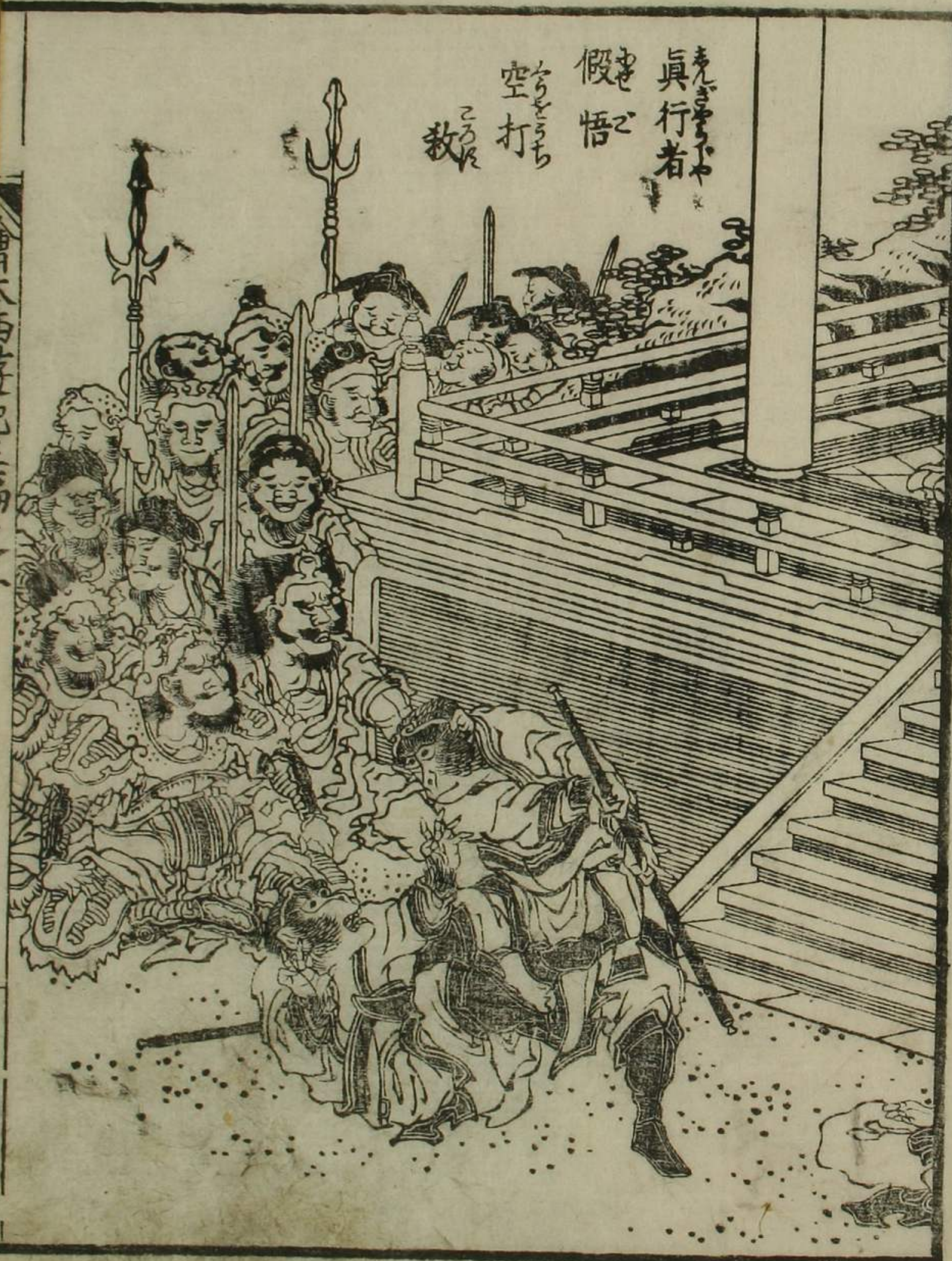
とさるや且備小仔細と語り悟浄喘氣喘々的行者が唐僧と打倒し
 ころり水簾洞より假二藏を装構し支ども一編の寶道此支と告
 奉らんとて悉く死小行者疾くも筋斗雲に乗て我より樹向ふ爰ふまゐる
 極て辞を乖巧めして執飾り其身の善様ふの之誼へ告り候らん其喜
 薩同しゆて你人を恨る支を止し悟浄此處小まゐりて四日ふ及ぶ一時
 由我身邊をまじいれんと假を構へ経を拿んとさる支有んや悟浄
 が曰く既小今水簾洞小一人の孫行者あり為可恨る小菩薩を敷き
 奉りて胡説の支と告り上んや菩薩重ねて曰く既小斯の如くわ
 び悟浄と俱小彼死小倒らる自ら分明らん行者是を聞くと悟
 浄と打列り菩薩小雲時辞し別と奉りて雲小打乗花果山水簾洞小
 ぞ封きころり

二心攪乱大乾坤

一體難修真寂滅

孫行者の悟浄と打列て雲頭を越り頓て花果山小到つて雲より下つて見ふ忽ち一人の行者石臺の上小座して群猴と偃ふ延宴をす其の容衣帯より鍔棒小至るまで亦更ふ分毫も差はざり行者是を見んて大い小僧と鉄棍を把り進より罵て曰く你奈何なる好精者の我女小凌化して我兒孫們を奪ひたりや彼行者固も敢て鉄棒を振て打て懸る真の行者も同く鍔棒を閃て兩人頓て九霄の雲内小打昇つて百餘合ぞ戦ひたる悟浄の洞の中小駈入て小群女を追取行囊を奪ひてども更ふ見ざり唯一條の白布廣あつて洞の門を渡揺る悟浄十分利害やと雲小衆く空中小到つて悟浄が戦を援んとする小那個を突の行者との分ち難くは漫る小手と下とを更能はば

二人の行者悟浄小向ひ你力を助るふ及び登く梯して師父小此由と告とて我今より南海菩薩の所小到つて真と假とを分つべし悟浄是を聞ては奈何又雲小打乗て三藏の居る方へぞ立帰る兩人の行者を戦ひるが南海落伽山小到つて護法諸天大驚き斯と菩薩小注進して其菩薩立出のひ二人を叱て曰く你亦再か言を止て何ま有や真と假とを行者各て告りたる此女怪老孫が女小変り真も假も分ちざり願くは菩薩慧眼を延て鉄是を分ちせめへ一人の行者も云處する斯の如く菩薩慧眼を見ぬふ小実小真小假さるるちがて愛を以て且善財童子と木又と小命とて二人を引分て密小諸天小曰ひけるの吾今緊結呪を唱へて頭の疼を首の行者とく疼を首の假とせん衆位然るべと云奉沙を菩薩頭く緊



無二ノ言ハシメ

無二ノ言ハシメ

五

五

施呪を唱へるふ二人の行者一齋頭疼し頭疼し念をさぐる言ふ
 ら念をさぐる言ふと叫びける菩薩口を止め多人を二人の行
 者の又上首の如く一齋成り相戦ふ菩薩今の詮方多く二
 人ふ向ひて曰く你社昔たのふ天宮を騒しをを天上小
 到りて言ふを分べ二人の悟空是を聞て半戦ひる半
 空を越つて南天門に到る爰も又諸神達出ぬ二人同悟空
 が打呀と見て呆臉呆て立ふ行者曰く此妖怪老孫が容小愛は
 真偽更ふ分ちが願ひの諸神是を分ち多人又一人の行者も同
 言を訴ふ諸神も為詮う引列て玉帝小見えし備ふ是を奉
 向され玉帝仔細問ゆ多の托塔天王小命を照魔鏡を取来
 りて渠們を照し本相を顯すべと曰ふ天王命小應し照魔鏡を

把来り是を照し見すのめ則悟空が姿二人一容小秘して衣帶鉢捧
 小至るまで分毫も違はば玉帝又是を分ち言ふ殿外に出
 ぬの二人の行者一齋のやう吾們今より師父三藏の許小行て此
 嘘実を分べくと云つ亦空中を戦ひる二藏の居ぬ方へと
 走り行此時悟浄の三藏の許小回して花果山ふての動靜を見奈
 語り師徒二人疑ひ怖し居處小忽ち空中小吶喊响唬色聞え
 る二人の行者戦ひる二藏の前小来る二藏是を見て八戒と
 悟浄小命とて你們二人の行者を捉て引分よ我緊箍呪を唱て頭
 の疼むを真の行者とて取らざるを假とて端的小是を分べ八
 戒悟浄尤も同二人の行者を捉へ你等争ふ言を止て師父の計ひ
 を待多人三藏口の中小緊箍呪を唱へ多人を二人の行者一齋小轉

び頭疼む頭疼む念をさるる支又うの念ずり正るるも三藏口を止める人
 を二人の行者が曰く吾們又閻王の廳ふ到りて其發放を待べきなり
 と上首の如く鉄棍を把く相戦ふよと見らるる一が竟ふ姿を見せ
 此時八戒悟淨ふ向ひ你水簾洞ふ到りて行囊と拿すまめど
 るい奈何るる故ぞ悟淨が曰く吾も是を尋すれども唯一條の瀑
 布の右て外ふ眼ふ遮る物もなれば八戒が曰く汝知むや白簾布の
 後ふ洞あり其飛泉を潜て洞ふ入り原未我能路開を知れを今よ
 り行く行囊を把まらんとて頓て雲ふ打乘て華果山さしてまき
 たり却説二人の行者の戦ひるる終ふ陰山の後ふ到る山中の鬼ど
 も敬馬き怕むる急ぎ十殿大王へ報じ大王地藏王菩薩ふ告地藏王
 菩薩より森林羅殿上ふ奏り送る大王出給へを衆位の陰兵又く

伺公して是を見小狂風滾々として二人の行者戦ひるる森林羅殿の許
 到る閻王進て出て曰く大聖何事あり我幽冥を騒がせや行者曰く
 此妖怪吾妾小愛假と真を分ちらるるけ故ふ今閻王の查看と願ふ
 疾く此妖怪が魂魄を奪ひ二星混乱するを脱してめ一人の行者の
 又斯の如く告る閻王大王の小敬馬き頓て管簿判官を召て件一ふ點化
 ある小假より行者が名字を抑地藏王の衆の戦ひ此二時の間ふ四人
 部例の怪異を悟る物なれば是ふ命として二人の行者を窺はせり此
 森羅殿上小匍匐して姑く有る頭を兼手地藏王ふ向ひて告りたる妖
 怪が名悟しつと雖も今眼前ふての説くは尙是を除んと欲せば管簿
 如来小目んえしめあ地蔵王是を悟りては行者小向ひて命を命する
 兩人形一穴ふして更ふ二個の尙是をハカんと欲せば雷音寺如来の

前ふ到り其里白と明めよ二人の行者是を聞て一奇ふ吹喝て行と
 もく吾們趁早西天ふ到て如來ふ見え候んと又躍あつて戦ひさ
 ぐらまづつて竟ふ西天ふ到る此時如來衆位の御弟子と會め説法を
 うらふ如來の妙音廣長舌列位耳を傾け心を清く孝恭しく聴
 聞と既ふ御説法終る頃天華繽紛とて普く降りし音楽半空ふ御音
 き渡る如來大衆を顧て曰く你們都て一心且者よ二心争ひ来る大衆眼
 を拳し是を見ふ二人の行者天ふ叫び地ふ喚きて雷音寺ふ戦ひ来る
 個々の金剛止る竟能り二人の行者俱ふ乱嚷て其下ふ到て如來の
 御前ふ蹲踞上首より竟ども備細ふ訴へ奉て願く佛祖憐愍
 を垂ゆいと我們が為ふ邪正を辨とらん如來二人の悟空と文音色
 ちにて一容めて無二なるを御覽あり疾く是を分曉めい其大謂と

と説くとし如來ふ心ち観音菩薩雲ふ乘て来り如來を拜し見え候
 ふ如來曰く観音尊者你看よ彼二人の行者の那個は是の真意とん菩薩
 薩吞へめひたる日向日我山中ふもまり候とて委しく是を并へて是
 小依く如來ふ告奉らんとて悉くぬ万望果を八かせぬ如來笑て曰く
 餘法力廣大ると雖もぬ周天の物を知て周天の種類を知れば言
 薩目是を聞あひて頷くの周天の種類を仔細示しぬんやと曰ふ此時如
 來説て曰く周天の種類を十類五仙といふ所謂天地神人鬼五虫あり
 五虫の便ち蠃カモア鱗カモア毛カモア羽カモア昆カモア是より彼一人の妖怪の行者
 を天地神人鬼ふも非ぶ亦五虫ふも有れば別種ありて号て四猴混世菩薩
 と云其四猴の第一を靈明石猴と云能変化ふ通て天の時を知り地の理
 を察すと第二は赤尻馬猴と云陰陽を悟り人鬼を知出入をよくり

と第二は是通臂猿猴日月と把千山と縮め休外きうがいと并なら日第四は是六耳
 孫猴そんこうとくく日ひと聞理きんりと察さつ前後の支しと知此四猴十類しこうじゅうるいふ入いに西間の名
 と列りねるるる五ご日にち今いま此こゝ假悟空かりごくうと見るみるる小真せうしんの悟空ごくうと形かたちち同おなくく也や昔むかし日ひ由よし一穴いっけつを
 ろろのの則すなはちち是こゝ六耳りくじ孫猴そんこうとと曰いはふふ悟空ごくうふふ化まじまるる彼か孫猴そんこうはは如來にょらいの本相ほんさうを説と
 出いづづののふふと聞きくく大だい小せう孫猴そんこうとと胆たん慄りつききるる心こゝろふふ逃にげげんととままるる死しふふ如來にょらい大衆だいしゆふふ命いのちとて
 投なげげるるのの大衆だいしゆ一同いどう小拉圍せうらゐのの人ひとをを彼か孫猴そんこう勿なしし心こゝろをを愛あいふふとと蜜蜂みつちち見みるる空
 中ちゆうへへ飛昇とびのぼるると如來にょらい鉢盂はつむをを把とりりてて授たまへへをを蜜蜂みつちち見みるる此こゝ裡こゝ小覆せうふくとと地上ちとうふふ撥
 と落おちちるるけけりり大衆だいしゆ孫猴そんこうを見失みまひひ此こゝ彼か死しと尋たずねねるる口管くわん騷さわぎぎるるとと曰いはふふ如來にょらい笑わらて
 曰いはふふ妖怪ようがい那などど逃にげげるる支しと得えやや吾鉢盂わがはつむの裡こゝふふありあり者もの々々大衆だいしゆと曰いはふふ鉢
 盂はつむと把除とれれとと六耳りくじ孫猴そんこうの本相ほんさうと頭かぶへへ再度また逃にげげんととままるる死しふふ大聖だいせい行者ぎやく鉢
 棍はつと廻まりりてて竟つひふふ是こゝをを打殺うちころすす此こゝ故ゆゑふふ四猴しこうの中なか今いま此こゝ一いっ種しゆ絶たつつととやや

未行者みぎやく小命せうめいたるるのの你疾なんぢやくくく行ゆてて唐僧たうそうを助たすけてて爰こゝふふ来きりり經きやうと把とりりてて正果せいこくを
 得えべべ一いっ行ぎやく者しやく頭かうを叩たたいていて曰いはふふ我わが師し父ふ今いま既すでにに吾わがをを追放おひなちちのの願ねがひひ如來にょらい
 鬆しやう箍く咒じゆを唱となへへてて吾わが鬆しやう箍くとと扱あつつるる俗ぞく小庚せうかうとと眷屬けんじやく們ら俱とも小生せうじやうとと養
 ふふべべ一いっ如來にょらい曰いはふふ你なんぢ怠慢たいまんのの心こゝろをを発はつすすとと曰いはふふ我わが今いま觀音くわんおん小命せうめいとと你なんぢをを送
 るる返かへさんさん唐僧たうそうのの美諾みだとと支しとと怕おそるる古こ支しとと曰いはふふ行者ぎやく合掌がうしやう
 して恩おんを謝しゃへへ奉ほうるる觀音くわんおん菩薩ぼさつのの命いのちを受うてて行者ぎやくと俱とも小雲
 小乘せうじやうのの三藏さんざうのの舎やどと居ゐりりとと老波らうは女にょ家けああと到いたりりゆゆ此こゝ時とき悟ご淨
 觀音くわんおん菩薩ぼさつののままりりのの心こゝろをを見みてて急いそぎぎ師し父ふ小斯せうしとと告つげげるる三藏さんざう菩薩ぼさつをを
 立た出だすす是こゝをを拜らいとと菩薩ぼさつ曰いはふふ唐僧たうそう向日こうじつ你なんぢをを打うつつるる六耳りくじ孫猴そんこう
 乃すなはちち如來にょらい是こゝとと悟ごととのの心こゝろをを悟ご空くう小命せうめいとと殺ころすすとと曰いはふふ今いま又また悟ご空くうをを送おく
 飯いへへ你なんぢをを接せつてて西天さいてん小到せうたうりり經きやうと把とりりててめんめん支しと示しすす一いっ心しん你なんぢ再また度たふ知しりり恨

るを止て行者と伴ふ二藏頭を叩く恩を謝し情願て尊命
 尊ひ侍りんと吞へ奉る此時東の方より狂風滾々として八戒行囊
 を把飯すまの雲を降る菩薩を見て拜する其華果山小到り死
 小果して唐僧八戒悟浄を見る是を伴ふ打殺候へ都て皆候の
 妖精なり然して行囊の把まり候ふ亦彼二個の行者の奈何候
 や菩薩則ち如來の假行者が本相を見頭しゆひ行者小打殺させ
 ゆひしを仔細語りゆひ八戒惟喜師徒諸候ふ口管謝し奉
 る菩薩又雲小衆と別れを告て歸り去ゆへ三藏師徒の天小向ひ
 て禮拜し老婆小も深く謝し礼を施し此處を立出り只管路を急
 ぎ西小向ひて進むゆ油漬

繪本西遊記三編卷之貳 早



